しもじ通信 vol.156 2021年 5月号

『新型コロナワクチンの副反応は？』

しもじ内科クリニック院長
下地　栄壮

まだ本格的な接種開始時期は不明ですが、ようやく新型コロナウイルスに対するファイザー製の新型コロナワクチン『コミナティ筋注』の接種が一部の医療機関で始まりました。心待ちにはしていたが、いざ打つとなると心配になるのが副反応だと思います。厚生労働省が行った国内での調査の中間報告では、接種部位の疼痛が最も多く、倦怠感、頭痛、発熱の順番で頻度が多くみられました。また、多くの症状が１回目よりも２回目に多くみられました。

発熱の場合、１回目接種後の発熱（37.5℃以上）は 3.3%であったのに対し、２回目は 35.6%と高率で、翌日が多く接種３日目には解熱しています。また、接種部位の疼痛は１回目、２回目共に 90%以上で、接種翌日が最も多く、３日後には軽快しています。

また、下表のように副反応疑いの中でも発熱と倦怠感は、高齢者よりも 20～40 代で発生頻度が多いと報告されています。

《副反応の主な症状と発症率(1 回目/2 回目)》

接種部位の疼痛（92.9%/93.0%）　倦怠感（23.2%/67.3%）
頭痛（21.2%/49.0%）　発熱(37.5℃以上)（3.3%/35.6%）
発熱(38℃以上)（0.9%/19.1%）発赤（13.9%/16.0%）
腫脹（12.5%/16.9%）　熱感（12.8%/16.6%）　硬結（10.6%/9.9%）
かゆみ（7.9%/10.4%）

最も重い副反応であるアナフィラキシーは、米国での報告では 100 万回あたり 11.1 件と報告されています。国内での報告では、100 万回あたり 46 件と多い印象があります。その理由はまだはっきりしていませんが、米国では最初の接種対象者に医療従事者だけではなく施設の入居者、すなわち高齢者が含まれていたことが影響した可能性が考えられます。一般的にアナフィラキシーは高齢者よりも若い方に起こりやすく、接種対象者に高齢者が多く含まれるとその分アナフィラキシーの発生頻度が低くなる可能性があります。また、アナフィラキシーとして報告されたほぼ全ての症例で軽快したと報告されています。

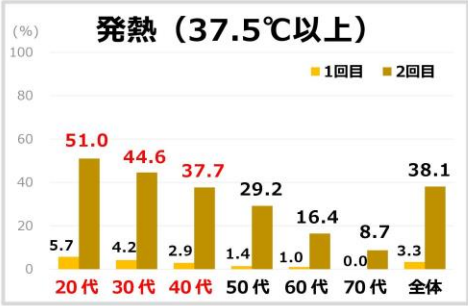
《アナフィラキシー発生の年齢別と性別》

20～29 歳：17 件（男性 6 件/女性 11 件）
30～39 歳：20 件（男性 2 件/女性 18 件）
40～49 歳：30 件（男性 0 件/女性 30 件）
50～59 歳：18 件（男性 1 件/女性 17 件）
60～69 歳：　3 件（男性 0 件/女性 3 件）
合計 88 件（男性 9 件/女性 79 件）（全報告数）

ワクチン接種が進むイスラエルでは、新型コロナワクチンの感染予防効果が 92%、発症予防効果が 94%、重症予防効果が 92%と報告されています。新型コロナウイルスに感染した場合の年代別死亡率は、30 代 0.1%、40 代 0.1%、50 代 0.4%、60 代 1.7%、70 代 5.2%、80 代 11.1%と高齢者ほど重症化することが分かっていますので、副反応のリスクよりワクチン接種のメリットが高いのではと思います。

ファイザー社の新型コロナワクチン 年代別の副反応疑い発生状況

副反応疑い症状のなかでも、**「発熱」「全身倦怠感」は高齢者よりも 20～40 代で発生割合が多い**と報告されました（1 回目より 2 回目で報告多数）。



しもじ内科クリニック（nico nico studio）
東区三苫 3 丁目 2-49（福岡銀行美和台支店隣り）
TEL：092－605－6300